

○議長 内海 猛年君

次に4番、長島議員の一般質問を許します。長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

4番、長島です。通告書に従いまして質問いたします。

皆様、体調はいかがでしょう。ここにおられるほとんどの方々は、40歳代以上かと思われる。年齢を重ねるにつれ、健康には日々気を遣われていることと思います。

しかし、家族や知人、友人などが健康を害されたり、運悪く倒れてしまい、障害が残ってしまったりと、いつ何どき、自分自身やまた家族友人に体調の悪化が降りかかってくるかは分かりません。

町民の皆様が末永く、健康で楽しく暮らしていけることを願いまして、本日は健康、特に生活習慣病について、幾つかの質問をしたいと思えます。

件名1いきます。町民の生活習慣病の傾向と対策について。

生活習慣病は健康長寿の最大の阻害要因となるだけではなく、脳血管疾患や心疾患などを引き起こし、医療費にも大きな影響を与えています。

今後さらなる高齢化社会を迎える中で、医療費の抑制は大きな課題であり、生活習慣病の発症予防・重症化予防対策は、芦屋町第3期データヘルス計画にも記載されていますように重要だと考えます。

生活習慣病の多くは、不健全な生活の積み重ねによって引き起こされます。逆に言いますと、一人一人の取組で予防ができる疾患です。日常生活の中での適度な運動、バランスの取れた食生活や禁煙を実施することによって予防することができます。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、ステイホームや食事のテイクアウトなどが増え、運動不足や高カロリーになり、生活習慣病やその予備軍であるメタボリックシンドロームは大人だけではなく、子供など様々な年齢層で増加しているのではないのでしょうか。

そこで、昨年12月議会で健診について質問しましたが、今回はより幅広い年齢層の健康状態についてお聞きしたいと思います。

要旨1いきます。

昨年12月議会でも質問しましたが、今年度の特定健診受診率について伺います。

○議長 内海 猛年君

執行部の答弁を求めます。健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

お答えします。

特定健診は糖尿病や高血圧症などの生活習慣病の予防のために、40歳から74歳までの方を

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

対象に、生活習慣病の前段階であるメタボリックシンドロームの予防・改善を目的とした健康診断で、対象者が加入している医療保険者が実施します。

特定健診の結果、腹囲が男性は85センチメートル以上、女性は90センチメートル以上で、かつ血圧、血糖、脂質の3つのうち、2つ以上が基準値から外れると、メタボリックシンドロームと診断されます。

御質問の特定健診受診率につきまして、芦屋町が医療保険者として国民健康保険加入者に対して実施した令和5年度の特定健診の結果は、対象者が1,794人、その内、受診者が744人で受診率は41.5%です。前年度の37.1%から4.4ポイント増加しております。

また、特定健診の受診者でメタボリックシンドロームの該当者の割合につきましては、28.4%でございます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

私レベルなのですが、町内飲食店さんやそこに来られる特定健診対象者さんと、よく健康や健康診断の話になります。

当然、健診受診のお声かけなどはしていますが、体感的にリアクションがよくないと感じていたのですが、昨年度よりも伸びており、これも勸奨や周知活動、何より職員さんの努力かと思いますが、健診率向上の要因についてどう捉えておりますか、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

令和5年度もこれまでと同様に、積極的に勸奨や周知活動を行っていますが、新たにインターネットによる申込みができるようになったことや、令和4年度からは特定健診を2年連続受診した方は、3年目の受診料を無料とするなど、過去からの様々な取組の効果が表れたものと考えています。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

非常に評価したいと思います。引き続きお願いいたします。

では次に、令和3年度、県ワースト1位だったメタボ率の、昨年度の特定健診受診者の町民メ

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

タボ率について、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

お答えします。

国民健康保険加入者の特定健診の結果におけるメタボリックシンドロームの該当者の割合は、福岡県60市町村中、令和4年度は高いほうから4番目、令和5年度は高いほうから3番目です。以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

大人は県内上位をキープしているようですが、次にいきたいと思います。

要旨2にいきます。

では次に、若年層、小中学生のメタボ率と伺いますか、肥満率・数についてお伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

小中学生の肥満率でございますが、これは保健所に報告している、特定給食施設栄養報告書に基づいてお答えいたします。

小学生はおおむね7人に1人、中学生はおおむね6人に1人が肥満傾向児ということで報告されています。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

芦屋町の小中学生と郡内他町の小学生と比べてはどのようなことが言えますか。

○議長 内海 猛年君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

郡内各町の教育委員会へ確認した内容に基づき、お答えいたします。

学校における指導内容等は郡内では大きな違いはありませんが、議員御指摘にあります児童生徒数に対する肥満傾向児の割合は、芦屋町は郡内他町よりも高い傾向にあると思われま

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

先ほど、中学生6人に1人ぐらいということでしたが、これを多いか少ないか捉えるのはちょっと難しいんですけども、小中学生の肥満の程度を表すローレル指数の計算で160以上の数値を示した人数かと思いますが、中にはぎりぎりの数値の肥満予備軍生徒も多いのではと推測します。

また小学生年代より、中学生年代にパーセンテージが増えているのも気になります。

子供の肥満は将来の健康を脅かす可能性のある深刻な問題です。肥満の予防や対策には、家庭でのサポートが必要不可欠だと思いますが、小中学生へ予防啓発などの健康教育はしておりますか。

○議長 内海 猛年君

学校教育課長。

○学校教育課長 木本 拓也君

小中学校における健康教育は、児童生徒が健康的な生活習慣を身につけることを目的としています。

まず小学校で行われていることで、主なものを4つ説明します。

1つ目は、基本的な健康習慣についてです。手洗いの方法や歯磨きの重要性、適切な食事の取り方などを学びます。

2つ目は、身体の発達についてです。成長期の体の変化について理解し、健康な体を維持するための運動習慣を学びます。

3つ目は、安全と応急処置についてです。交通ルールの遵守や事故時の応急処置の基本を学びます。

4つ目は、感情と人間関係についてです。感情の表現方法や友達との良好な関係を築く方法を学びます。

次に中学校で行われていることについて、これも主なものを4つ説明します。

1つ目は、思春期の健康管理についてです。思春期における体の変化について詳しく学び、自分の体を大切にする方法を理解します。

2つ目は、性教育についてです。性行動に関する基本的な知識や性病の予防、望まない妊娠の防止について学びます。

3つ目は、生活習慣病の予防についてです。喫煙や飲酒、薬物の害について学び、健康的な生活

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

習慣の重要性を理解します。

4つ目は、心の健康についてです。ストレス管理や精神的な健康を維持する方法を学びます。

このほかにも、養護教諭などが学校保健安全法第8条に基づく、児童生徒の心身の健康に関する健康相談を行ったり、同法第9条に基づく健康上の問題があると認められる児童生徒に対する保健指導及びその保護者に対する指導助言を行ったりしています。

以上でございます。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

しっかりやられていることが分かりました。40歳以上、また小中学生のデータは分かりました。

その間の世代、いわゆる若者健診40歳以下の方々の受診率とメタボ率について、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

若者健診世代についてお答えします。

芦屋町で実施している若者健診は、受診時に芦屋町に住民票がある、19歳から39歳までの方を対象としています。

令和5年度の若者健診の受診率は3.3%、国民健康保険加入者のみの受診率は6.1%です。また若者健診受診者で、メタボリックシンドロームの該当者の割合は5.9%です。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

昨年度と同様、受診率が非常に少ないようです。

特定健診に比べ受診率が低い理由をお聞きいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

若者健診の未受診の理由につきましては、調査は行っておりませんが、厚生労働省が毎年実施しています、国民生活基礎調査におきまして、年代別の健診を受けなかった理由の調査結果があ

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

ります。

この国民生活基礎調査は厚生労働省が行う基幹統計調査で、全国から無作為に抽出した世帯や個人を対象に、世帯構成や健康、介護などの状況を尋ねるものです。

令和4年度の調査結果では、年齢が20歳から39歳までの方で、健診を受けなかった理由として多い、上位5つの回答としまして、時間が取れなかったから、面倒だから、費用がかかるから、心配な時はいつでも医療機関を受診できるから、健康状態に自信があり、必要性を感じないからでありました。

これらの理由は、芦屋町でも同様の傾向であると考えています。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

では、要旨2にいけます。

若者健診の受診者数が少ないので、参考までに町の職員さんの健康状態について伺います。

メタボ率や高血圧など生活習慣病の傾向や、郡内での比較が分かれば教えてください。

○議長 内海 猛年君

総務課長。

○総務課長 佐竹 功君

町の職員の健康状態についてお答えいたします。

なお、お答えする内容は、令和5年度に実施した職員の健康診断の結果に基づいてお答えいたします。また、データの関係上、正職員に任期付職員を加えた職員についてお答えいたします。

まず、メタボリックシンドローム率については、健康診断の受診者約190名の約9%、17名がメタボリックシンドロームの基準該当と判定されています。

次に高血圧につきましては、健康診断の受診者約190名の約17%、32名が高血圧と判定されています。

なお、郡内比較につきましては、資料を持ち合わせておりませんので御容赦ください。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

先ほどの、皆様の答弁で比較的若い世代の方や、働き盛りの世代の方々のメタボリックシンドロームは少ないのが分かりました。

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

しかし、年齢とともに運動量が減ったり、代謝が落ちたりと、今後メタボの可能性が高くなるのも分かりました。

子供の食事を準備しているのは主に保護者かと思いますが、先ほど学校教育課の答弁で、子供たちは健康についての知識を学習していることは分かりましたが、その保護者の方々への予防啓発が必要かと思います。

何か取り組んでいることはありますでしょうか。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

先ほど御説明しましたとおり、特定健診は医療保険者が実施主体となり、40歳から74歳までの加入者を対象に行われる健診です。

特定健診の結果から、生活習慣病の発症リスクが高く、生活習慣の改善による効果が多く期待できると判定された人に対しては、特定保健指導が行われます。

芦屋町の国民健康保険加入者で特定健診を受診した結果、特定保健指導が必要と判定された方には、町の保健師・管理栄養士が生活習慣を見直すための指導や助言を行っています。

また、19歳から39歳までを対象としている若者健診につきましても、同様の対応を行っております。

なお、就労されている方につきましては、労働安全衛生法により、事業者が労働者に対して健康診断の実施が義務づけられているほか、必要に応じて健康診断の結果に基づく保健指導を行うよう、努めることとなっています。

そのほか町の取組としましては、広報あしやに毎月健康に関する記事を掲載し、啓発を行っております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

学校教育課、健康・こども課、それぞれいろいろ取り組まれていることは分かりました。

しかし、大人の健康、子供の健康と切り離すことはできないのではないのでしょうか。連携して対策していくべきだと思いますが、また先ほどの答弁で、子供の時点で既に郡内と比較してメタボ児童生徒が多いとのことでしたし、それに加え、大人も県内上位をキープしている多さならば、町としてメタボ率を課題と捉え、何か取組が必要なのではないかと思います。

まず、健康部門と教育部門との連携体制はどうなっているのかお伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

先ほどの学校教育課長の答弁にありましており、小中学校では学校保健安全法に基づき、養護教諭が児童生徒への健康相談、保健指導を担うこととなっているため、健康・こども課は直接的な関わりがなく、連携していないというのが現状であります。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

学校では学校保健安全法に基づき実施しているとのことですが、健康・こども課に関しては健康増進法に基づき、取組が行われていないのでしょうか。

課題は共通だと思いますが、法律が違うから連携できないといった意味になるのでしょうか。

町内の様々な分野の方々が入られております健康づくり推進協議会がありますが、そこでは協議されていないのでしょうか。大人の健康、子供の健康と切り離すことはできないと思いますが、連携して対策していくべきではありませんか。

その点についてお伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

健康づくり推進協議会では、健康・こども課で実施している保健事業について御審議いただいています。内容としましては、母子保健事業や成人保健、健診事業などが主なもので、小中学生を対象とした保健事業はありません。

しかしながら、議員御指摘のとおり、生涯を通じて健康に過ごすためには、子供の頃から健全な生活習慣を身につけることが重要と考えます。

現行の芦屋町健康増進計画が令和7年度で終期を迎えるため、来年度、次期計画を策定する中で、小中学校との連携を検討したいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

前向きな答弁と捉えておきます。

次にいきます。

私も毎年、健診を受診しておりますが、恥ずかしながら肥満と高血圧で保健師さんから指導されております。

それから、血圧を気にするようになりましたので、次に高血圧についてお聞きします。

先日、ある有名な方が浴室で突然お亡くなりになりました。皆様もニュースを見て驚かれたのではないのでしょうか。年齢は私の1つ上の54歳でした。原因は定かではありませんが、ヒートショックの可能性も否定できないとの報道もありました。

このヒートショックという言葉はよく耳にしておりましたが、高齢者の方々に多いという認識で、自分にはまだ関係がないと思っておりましたので、今回のニュースはとてもショッキングでありました。

このヒートショックが原因で、年間1万9,000人もの方々が浴室で亡くなっているそうです。ヒートショックには高血圧も関連しており、また脳卒中や心筋梗塞、腎臓病など様々な病気のリスクとなり、死亡リスクを上昇させます。

高血圧は喫煙の次に高い割合を占める死亡原因であり、日本では年間約10万人が高血圧による脳、心臓病で死亡しているとされております。

また脳卒中や心臓病は死に至らなくても、寝たきりや手足の麻痺など後遺症により、生活に影響を及ぼす原因にもなります。

寿命や生活に大きな影響を与える脳・心血管疾患を予防するため、その大きな原因となる高血圧の治療を行うことが大切だと考えますので、以下の質問をいたします。

要旨3です。

特定健診受診者と高齢者の高血圧の人の割合と推移について、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

国民健康保険加入者の特定健診結果でお答えします。

高血圧の基準である、収縮期血圧が140ミリメートルエイチジー以上、または拡張期血圧が90ミリメートルエイチジー以上に該当した方の割合は、令和5年度では25.1%、65歳から74歳までの方では28.0%です。

これは令和4年度、令和3年度も同様の水準でございます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

約4人に1人が高血圧ということになると思いますが、血圧は加齢により上がっていくため、今後ますます高齢者社会に突入することを考えると、さらに増えていくことが予想されます。

このように高血圧の方が多い状況なので、御自身の血圧が気になる方も多いようです。実際に町民の血圧を気にされている方に、町内に血圧計はどこに置いてあるのか聞かれましたが、どこに設置されておりますか。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

町の施設では、役場庁舎1階のロビー、総合体育館のトレーニング室、マリントラスあしやの大浴場出入口の前の合計3か所に設置しています。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

私も健診受診後に保健師さんなどに血圧のことは指導され、できるだけ毎日測定するようにと指導を受けました。自分自身も気になります。

先ほどの課長の答弁にあった役場以外の設置場所は、総合体育館のトレーニング室とマリントラスあしやですね。役場以外の設置場所は施設利用者でないと計測しづらいと思います。

思うと、実質、役場だけになります。私も先ほど、血圧を測ってきました。上が159、下が104で高血圧なのではないかと思います。やはり一般質問前の緊張で少し高かったのと、職員さんに見られていると思うと勝手にそわそわどきどきしてしまうのでやりづらさもありました。

もっと血圧測定を気軽にできたらいいのではないかと考えておりますが、芦屋町中央公民館、芦屋東公民館、山鹿公民館の3つの公民館に置けないでしょうか、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

日本高血圧学会などによりますと、より正確な高血圧の診断や指導のためには、自宅で血圧を測定する家庭血圧を記録することが推奨されています。

測定は朝と晩、朝は起床後1時間以内で朝食や服薬前、晩は就寝直前、それぞれ複数回測定する必要があります。また長期間にわたって測定することにより、季節の移り変わりに伴う血圧の変動を知ることができます。

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

町の保健指導におきましても、家庭血圧の測定を推奨しており、現時点では血圧計を新たに設置することは考えておりません。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

インターネットのほうで公民館・血圧計と、試しに検索してみてください。公民館に設置してある市町村、たくさん出てきますが、芦屋町では難しいとのことですので、残念ですが分かりました。

課長のおっしゃるとおり、朝晩の血圧測定が推奨されているのは、私も保健師さんから指導を受け、認識しております。まずは毎朝血圧を測定して、高ければ病院を受診してと言われますが、血圧計も持っておりません。そのために買うのもと、思いながらもやはり血圧のことは気になっています。同じような人も多いのではないのでしょうか。

毎朝の血圧を測定したいが購入が難しいという方もいらっしゃると思います。

健康診断受診の特典やキャンペーンで血圧の高い方、また指導が必要な方には期間を限定して、台数限定のレンタルする仕組みなどつくれませんでしょうか、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

血圧が気になる方は、自宅で測定する家庭血圧を長期間にわたって測定する必要があります。

このため現時点ではレンタル事業の実施は考えておりませんが、今後高血圧の施策を検討する上での参考とさせていただきたいと思います。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

はい、分かりました。

それでは貸出しが難しいのであれば、上限を設けた上で、買う手助けはできないのでしょうか。

県内ではみやこ町が血圧計の購入費の補助をしております。芦屋町でも検討できませんか。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

個人の血圧計購入に対する補助につきましては、健康・こども課で調べた結果では、視覚障害者用の音声案内機能付きの血圧計の購入補助を除いては、県内ではみやこ町だけが実施しており、また、全国的に見ても非常に珍しい補助制度であります。

家庭用血圧計の普及状況は全国で約4,000万台とも言われており、また日本産業衛生学会の文献では、平成24年のデータではありますが、高血圧の方の81%が家庭用血圧計を保有しているとの調査結果があります。

このように既に高い普及率であることや、購入後の血圧測定が確実に行われているかの確認などの課題があり、現時点では実施は難しいと考えております。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

自分で買うようにします。

しかし、先ほど課長が申した購入後の使用状況確認などについては、他の補助金、例えばコンポストなどと同様と思います。ほかにも確認しているのかなという疑問がありますが、確認が課題と言われますとそういったものも見直さざるを得なくなると思います。

血圧計に関しては、レンタルまた購入後に保健師さんと面談を行うなどの条件を設定することで、確認は可能ではないでしょうか。

そもそも、購入やレンタルを行うことが目的ではありません。現在、高血圧の人だけでなく、少し血圧の高い人が今後、高血圧の予防のために購入してみて、習慣的に気をつけたり、きちんと病院にかかるなどすれば、冒頭に言った脳・心血管疾患などの予防につながると思います。

購入補助やレンタルがあることで、高血圧予備軍の方々も血圧測定の習慣化のきっかけになればよいと思いますので、今後の対策として検討していただきたいです。

要旨5にいけます。

これまでのデータで、地域の生活習慣病の特色が見えた気がしますが、町としてはどのように捉えておりますか。なぜそうになってしまうのか。

これに関しては、正解はないと思いますが、何か町の見解があれば教えてください。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

芦屋町が実施している国民健康保険加入者の特定健診の結果では、先ほど御説明しましたとおり、ここ数年メタボリックシンドローム該当者の割合が、県内市町村の中で高い状況にあります。

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

メタボリックシンドロームの改善と予防には、適度な運動や食生活の改善が重要です。

現在、次期健康増進計画策定の資料とすることを目的に、町内在住20歳以上の無作為抽出による1,500人を対象に、健康に関する習慣などについてのアンケート調査を行っています。

回答期限は今月下旬ですが、11月下旬までに届いた回答約550件を集計した結果では、1日当たりの平均歩数について、生活習慣病の発症リスクを下げると言われる歩数の目標値であります、20歳から64歳まででは8,000歩、65歳以上では6,000歩に対して約8割の方が達していないという結果が出ております。

ほかにも様々な要因があるとは思いますが、この結果からは運動量が不足していると思われる方が多いことが一因であると推察されます。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

それでは、要旨6にいけます。

健康づくりのPRについてお伺いします。

あしや文化祭の健康づくりコーナーに、ここ数年続けて行かせていただいております。普段、測れない血管年齢や骨密度などが測定できて非常にいい取組かと思っております。

役場の血圧計の辺りかどこかにスペースを設けて、少し測定機器を増やして常設の健康コーナーを作るのはいかがでしょうか。

芦屋町の生活習慣病の現状を伝えることや、健康に興味を持ってもらう場所として検討できませんでしょうか。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

役場庁舎の血圧計の設置場所につきましては、現在の場所が来庁者にとって最も目につきやすく、また利用しやすい場所であると考えています。

現在の設置場所周辺は、来庁者用のパソコンやそのほか様々な住民の方へのお知らせや備品を設置しています。

そのため、スペースの都合上、機器の増設は難しいですが、議員から御提案ありました健康に関する啓発物などを設置したいと考えています。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

次にいきます。

それでは健康づくりのPRとして、もう少し大きな健康づくりフェアなどは開催できないでしょうか。

今ある文化祭での健康づくりコーナーは、健康に興味のある人が来るイベントに思えます。子供から高齢者まで不特定多数の方が参加でき、楽しく健康に興味を持つきっかけづくりのイベントを考えられないでしょうか。

中間市では大手食品メーカーと協定を結び、健康対策の情報発信やイベントの開催、また遠賀町では、おんが病院のドクターを講師に迎え、商業施設で高血圧イベントを開催したりしています。

岡垣町も同様に、同じドクターによる高血圧講演会や散歩で健康大作戦、また水巻町では水巻町健康づくり推進協議会主催の健康のつどいや看護助産学校と町が共同で健康まつりを開催したりしております。

今や近隣の多くの自治体で、健康をテーマにイベントを企画・開催しています。町内でもあしや文化祭健康づくりコーナーや医師による講演会など、別々では行っていますが、そのような事業を組み合わせる健康イベントを開催し、もっと多くの方に健康づくりに触れ合ってもらいたいと考えます。

先ほど町民の特徴として、運動不足、歩く歩数が足りないのではとおっしゃっておいりましたので、ウォーキングイベントでもいいのではないかと思います。

他自治体では著名人を呼んだイベントはまだ開催されていなさそうですので、他の市町村に先駆けて、健康芸人や筋肉芸人を呼んでの芦屋ウォーキングなどはいかがでしょうか、お伺いいたします。

○議長 内海 猛年君

健康・こども課長。

○健康・こども課長 塩田 健司君

お答えします。

今、議員言われましたとおり、各自治体で様々な健康づくりのイベントや啓発活動などが行われております。

芦屋町では毎年、文化祭におきまして、中央公民館の2階に健康づくりコーナーを設置し、骨密度や体組成などの測定や結果説明、健康相談を行っており、好評を得ているところです。

このようなイベントは健康づくりへの意識を高めるなど一定の効果はあると考えますが、昨年、

令和6年第4回定例会（長島毅議員一般質問）

答弁させていただきましたとおり、保健師や管理栄養士が地域に行って、住民の方と顔を合わせる機会を持つことも重要であると考えております。

今後の新たな取組としましては、保健師などが地域の方と交流する機会を作るため、自治区公民館などにおきまして、健康相談や啓発活動を行いたいと考えております。

なお、イベントということではありませんが、健康づくりの事業として、からだ、ゲンキ！教室とみんなで元気になろうや！講座を年間を通して実施しております。

からだ、ゲンキ！教室は、19歳から74歳までの国民健康保険加入者で、若者健診または特定健診を受診する方を対象として、年間で全40回開催しております。

内容は、血圧・体力測定、ストレッチ、リズム体操、栄養・健康の講話、ウォーキングなどを行っています。

また、みんなで元気になろうや！講座は、19歳以上の町民を対象として、5回コースで、保健師や管理栄養士、健康運動指導士による講話、トレーニング実践、ウォーキングなどを行っています。

以上です。

○議長 内海 猛年君

長島議員。

○議員 4番 長島 毅君

ただいま課長がおっしゃるとおり、昨年度も同じようなことをしていきたいと答弁していただいたことはよく覚えております。

マンパワー不足や事業の多さなどで職員さんも本当に大変ですし、なかなか前に進んでいないのかなという気はしております。体調には本当にお気をつけください。

町民の皆様が末永く、健康で楽しく暮らして行けることを願いまして、これで私の一般質問を終わります。

○議長 内海 猛年君

以上で、長島議員の一般質問は終わりました。